

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 私の部屋 さくら		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	平成22年7月10日	評価結果市町村受理日	平成22年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500660&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様との日々の関わりの中から発見したことを『ほっと報告』に記入し、職員がその情報を共有することでトリガーを発見し、ケアに活かすことが出来る。・季節を感じられるように、居室やリビングを季節の物で飾り付け、また玄関や食卓には花を生け、季節感を出している。またベランダや畑では花や野菜を作り、入居者様と一緒に育て収穫している。そして、年中行事を取り入れ、昔から家庭で行ってきたことが継続出来るように工夫している。・ボランティア来所による行事や散歩、外出を通して、入居者様同士や地域の方との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室の扉は開放されているが、部屋の中が廊下から見えない設計である。全居室に車椅子対応のトイレが設置されており、利用者はいつでも自分の部屋で気兼ねなく利用することができる。法人の医療機関との連絡体制がととのっており、利用者、家族が安心して日々過ごすことができる。グループ全体の統一的な研修、行事が実施されるなど、法人の組織力が活かされている。職員は、法人の方針を担い、福祉に対するあつい思いを持ちながら、利用者の気持ちに寄り添い、その人らしく、穏かで安心のある暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(1Fさくら)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、サービス目標を掲げ、個々のニーズをケアプランに反映させている。また運営推進会議で頂いた意見を参考に、カンファレンスで話し合い日々のケアにつなげている。	理念は、「何でも言ってください、私たちも一緒にがんばります」を、掲げている。地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員がカンファレンス等で確認し、実践につなげている。常に利用者にとって居心地良い環境づくりを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より2カ月に1度、地域運営推進会議を開催し、現状報告や施設の見学をし、開かれた施設を目指している。また、散歩や外出、ボランティア行事を通し地域の方との交流を図っている。	近隣の人と連携を深めるため、法人として、認知症の公開講座を開催し、地域の人々が参加している。自治体の奉仕活動には、地域の一員として参加している。地域の祭などにも、利用者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の場や、法人全体で、認知症についての公開講座を地域の方に向け開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて、ホームの様子や日頃の取り組みについて報告している。そこで頂いた意見を参考にし、さらなる向上に向けカンファレンスで話し合っている。	会議は、2ヶ月に1回開催されている。自治会関係者、行政・地域包括支援センター職員の参加がある。利用者の現状、ホームの行事など報告し、意見交換を行っている。会議室がないため、隣接の同法人施設と合同で開催する場合がある。	さらには、運営推進会議の開催場所は、利用者の生活・職員の様子など、身近に接することができるホーム内での開催が望ましいことから、検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に参加していただき、ホームの見学をして頂いた。また現状やヒヤリハット・アクシデントの報告を行い、頂いた意見をもとに改善に取り組んでいる。	行政の担当者とは、日常から連携をとり、困難事例等の相談、ヒヤリハット事例の対応などに具体的な指導を受けている。市が主催する学習会には、職員が福祉分野での幅広いエキスパートを目指し、積極的に参加している。市との協力体制はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を察知出来るよう鈴をつけたり、居室に畳を敷き、拘束を防いでいる。また玄関を障子とドアの二重扉とし、外出したい時には一緒に出かけられるようにしている。	個人の人権を守り、利用者の気持ちを大切に、拘束しないケアを実践している。まず、利用者の立場で、勉強会などで詳細に学習し、外出を希望する利用者には、共に出かけるなど、努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の公開講座やカンファレンスで学ぶ場を設けている。またカンファレンスにて言葉による暴力も含め日々のケアについての見直している。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスで学ぶ場を設け、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、事前に関係機関やケアマネージャーから情報を収集した上で部署長が立ち会い、不安や疑問を伺いながら、一つずつ納得、理解していただけるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見を頂けるよう努力している。また、家族会や面会時にご要望を伺い、頂いた意見をカンファレンスや運営会議にて話し合い反映させている。	利用者・家族からの要望や意見は、面会時などに、できる限り直接聞くように努めている。家族会を、年2回開催しており、代表がまとめてホームに提案する場合もある。提案された意見は、カンファレンスなどの機会に取り上げ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、カンファレンスで話し合い、意見交換が出来る場を設けている。また毎週の法人全体の会議にて部署長は課題を挙げ、話し合い検討している。	3ユニットが、それぞれ意見をまとめ、月1回のカンファレンスで意見交換を行っている。職員にとっては、運営に関する気づきや意見が気軽に提案できる環境ができています。法人全体で検討する内容については、部署長が、ホーム全体として提案し、検討する組織体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の制度を利用し、個々の取り組みについて振り返り、思いを把握しながら一人ずつ話し合い意欲向上できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務習得チェックリストを使用し、実際と力量について把握している。また、法人内の公開講座や委員会にて学べる機会があり、新人・中途採用者には研修も行っている。職員の資格取得を支援するシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームスタッフとは定期的な勉強会や情報交換の場を設け、相互の改善に努めている。またグループホーム協議会の勉強会に参加し、近隣の同業者との交流や情報交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前に関係機関やケアマネージャーから情報を収集するとともに、導入時にはご本人の思いや要望を聞きとれるようコミュニケーションに重点を置き、信頼関係が築けるよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居後の面会にて、今までの様子やご家族の思いや不安な点を伺っている。また、いつでも話して頂けるような信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関やケアマネージャーも含め相互の思いを把握した上で、必要な支援について話し合う場を設け安心できるケアにつながるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で野菜作りや家事などご本人の得意なことを活かせるようにしている。また、リビングで交流する場を設け顔なじみの関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会しやすいような環境づくりと面会時には日頃の様子を伝え、常に現状を把握して頂きながら御家族とともに本人を支援出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来所して頂けるような環境作りや、近隣の友人や顔馴染みの人に定期的に行き、関係が継続出来るよう支援している。	近隣の人々が気楽に訪問できる雰囲気づくりを支援している。道を挟み、法人施設内にある喫茶店は、サロンとしての役割りを担い、仲間づくりの拠点になっており、利用者は自分で出かけ、知り合いの利用者と楽しく過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの食事や毎日の生活を通し、入居者様同士が関われる場を設けている。そこから顔馴染みの関係が築け、互いのことを気遣われることがあり、スタッフは円滑な関係作りや互いの支え合いが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、法人内のサービスを利用されている際は面会に伺ったり、必要に応じて支援出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動やコミュニケーションの中から思いを受け止め、ニーズを見極めながら一人ひとりのペースに合わせたケアに努めている。	利用者が、穏やかに、安心して暮らすことが大切であり、一人ひとりの希望や思いを把握することが、職員の責務であると考えている。コミュニケーションのなかで思いや意向を把握し、支援している。笑みを忘れることなく、利用者に安心感を与えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人に生活歴やこれまでの経過等を伺い、馴染みのことがホームで継続出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態はカルテや業務日誌に記入し、特別なことは口頭での申し送りにより、スタッフが情報を共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を把握し、アセスメントした中で抽出された課題について、専門スタッフを含め話し合いご本人やご家族の思いを汲み取りながら介護計画に反映させ、取り組んでいる。	全職員で、利用者個々の適切なケアは何かについて検討し、介護計画に反映させている。さらに、本人・家族の希望を聞くと共に、法人内の医師・看護師・栄養士など専門職と話し合っている。3ヶ月ごとの定期見直しと、状態が変われば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画については日々の実践が把握出来るようカルテやモニタリング用紙に記入し、月に一度のカンファレンスで振り返り、改善に向け検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに合わせ、関係スタッフや関連機関と連携しながら、個々の状況やニーズにあった対応出来るよう努めている。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの来所により交流をもてるようにしている。また自治会の方々に施設を見学していただき、様子を把握していただくとともに、消防訓練などの実施により安全に配慮した取り組みも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族に随時状態は報告し、鶴沼中央クリニックとの連携により、月に4回の往診と週に1回の訪問看護にて、適切な医療が受けられるよう支援している。また、近隣の協力医とも連携し、随時往診や受診の際の協力を支援している。	入居時に、法人協力医等の説明を利用者・家族に行っている。協力医による月4回の往診があり、全員が受診している。また、週1回の訪問看護体制もあり、適切な医療を支援している。個別のかかりつけ医の受診には、家族が原則同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護により、日常の様子は報告し指示を受けている。また、緊急時はすぐに連絡が取れるようになっており、適切な対応が図れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、入居中の様子を医療機関へ提供し、ご本人が安心して治療が受けられるよう支援している。また、お見舞いに行くなど入院中の様子も情報交換出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望を十分聞き取り、最善のケアが提供できるようにしている。終末期などのありかたについては、ご家族、医師、看護師、スタッフが話し合い、協力医の支援をうけつつ、ターミナルケアが提供できる支援にも取り組んでいる。	重度化や終末期に対する方針については、入居時に説明し、同意を得ている。利用者、家族、医療関係者、職員がケアについて充分話し合い、方針を共有している。法人内でも看取りを含み、終末期の協力体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、急変時の対応や事故発生時の対応が迅速かつ正確に行えるよう努めている。また、消防訓練などによる救命訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練や定期的に避難訓練を行い、避難経路の把握や対応が出来るように努めている。また、緊急連絡網の活用により、近隣の関係施設の支援がある。また運営推進会議などで地域の方の支援の協力を呼びかけている。	消防職員立ち会いで、年2回、避難訓練が階段等を利用し、実施されている。ベランダを利用した脱出訓練も実施され、消防職員のアドバイスを受けている。緊急連絡網・緊急時の職員の配置などが整備されている。地域には、協力支援を呼びかけている。	運営推進会議で、地域の人に消防訓練への参加協力の呼びかけを検討しているが、ぜひ実現されたい。運営推進会議当日の実施も検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の扉の工夫によりプライバシーの確保に努めている。また認知症や接遇についての勉強会を行い、一人ひとりにあった対応が出来るよう努めている。	各居室には、トイレがついている。入り口の扉が開いていても、室内が見えない構造なので、プライバシーが確保されている。また、誇りを損なうことのないように、穏かな言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中で、思いを聞き取り実行できるよう支援している。日常的には、衣類の選択や飲み物の選択など自己決定できる場を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿うよう支援している。日常的なことでは食事時間をずらし、ゆっくり対応したり散歩なども本人の希望に沿い適時行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や好きな髪型や化粧など、その方らしい身だしなみが整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお茶の準備、盛り付けや配膳など、一緒に準備している。また、スタッフも一緒に食事を取り、会話によって楽しむことが出来るよう支援している。	職員が、同じテーブルに着くことにより、楽しく話が弾んでいる。副食は、法人施設で調理したものを、利用者と共に盛りつけ、配膳など一緒に行っている。食事の時間は、利用者のペースに合わせている。行事日には、おやつづくりを一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立により、栄養のバランスには配慮している。また、その方にあった食形態や量を調整し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアにより、口腔内の清潔に努めている。必要時はSTに相談できる体制もある。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入により、一人ひとりの排泄の状況を記録しパターンが把握出来るようにしている。また、カンファレンス等で話し合いトイレでの排泄が継続出来るよう検討している。	排泄用品は、専門業者や家族に相談し、利用者に合ったものを使用している。排泄パターンは、排泄チェック表により把握している。職員は、できる限りトイレに誘導し、失敗をなくすことで、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記入により、排便の状況の把握と、センナ茶やヨーグルト、オリゴ糖の摂取により便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方のペースに合わせ、入浴のタイミングや時間は変更している。また、入浴時のゆったりした対応により楽しんでいただける工夫をしている。	入浴は、ゆったりとした浴槽に、ゆっくり入り、楽しんでいる。入浴日は、原則週2回であるが、希望により対応している。利用者の体調により、シャワー浴・足浴なども支援している。楽しく、ゆったりが目標であるが、安全面での気配りにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やペースに合わせ、休息時間を設け居室で休んでいただけるようにしている。また、日中の関わりを多くとり夜間の安眠につなげられるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書を頂き、スタッフ誰もが服薬内容や目的、副作用を把握出来るようにしている。また状態変化時には、医師、看護師の指示を仰ぎ迅速な対応が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドアセスメントシートの記入により、一人ひとりの生活歴や好みを把握し、好きなことや得意なことが継続出来るよう支援している。水遣りや洗濯たたみなど生活の中で役割を持っていただき、生活の活性化に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩へ出掛けたり、近隣施設のなじみの方に会いに行くなど、その方の思いに沿って外出する機会を作っている。またご家族の協力も得て、以前住んでいた町やなじみの店へ出掛け、地域の方との交流も持てるようにしている。	散歩コースは、ホームから南にあり、日常的に出かけている。また、法人施設内の喫茶店や、法人合同のイベントにも積極的に出かけている。体調のよくない人は、ベランダを利用した外気浴などを支援している。	

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方についてはお金の所持をしていただき、その方に合わせ買い物や外出などでは支払いが出来るように工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話がかけられるよう支援している。また、携帯電話をお持ちの方へは操作の支援をし、家族や知人との交流を継続出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダや畑を活用し、開放的な明るい空間作りとともに、季節の花や装飾品をリビングや居室へ飾り、心地よい生活の場となるよう工夫している。	季節の野菜や花をベランダで育て、成長を楽しみ、居室に飾るなど心地よい空間を作りだしている。共同の空間から窓越しに眺める周囲の山や田園景色は素晴らしく、季節の移り代わりを楽しむことができる。部屋には、数々の手作りの品が飾られ、楽しい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の配置により、思い思いに過ごせるようにしたり、廊下やベランダに椅子を置き、リビングとは違った環境でも自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、なじみの家具や椅子を置いている。またご自分の好きなものや作品を飾るなど、その方の心地よい空間を考え提供している。	居室は、風通しが良く、全室車椅子用トイレ付きで気兼ねなく利用でき、廊下に面している。扉を開けても室内が見えない設計になっている。備え付けのクローゼットがあり、整理整頓が保たれている。整理タンスなど馴染みのものが持ち込まれ、思い出をいっぱい感じられる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今までの生活が継続できるように、新聞やテレビ、オルガンなど自由に使用できたり、畑などの水遣りなど行えるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 私の部屋 こぶし		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	平成22年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(2Fこぶし)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが見やすいところに掲げるとともに、毎月カンファレンスでスキルアップしていけるように議題に入れている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に来てくださるボランティアの方々と交流や散歩に出かけたり、グループ内の行事に参加したり、喫茶コーナーの利用等交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サンバレーで開催される毎月の勉強会を公開講座にし、認知症ケア予防の時間を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々やご家族・市の方々と2ヶ月に1度の割合で開催し情報提供したり、ホームを実際に見ていただき入居者の表情など見ていただくとともに、感想・意見をいただきサービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議(2ヶ月に1回)に出席していただき、実情やサービスの取り組みを伝えるとともに、現場(ホーム)の見学も通して協力関係を密にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体及び言葉の拘束も含めカンファレンスで話し合ったり、帰宅願望の訴えがあれば傾聴したり、一緒に出かけたりと本人の満足のいくよう心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に勉強会で学ぶ機会があるとともに、「自分ならどんなケアをしてほしいか」を念頭に置き、日々心がけている。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の勉強会で学んでいる。必要と思われる人には支援できる体制にある。相談に応じた例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約ともに相談室があり、十分な説明を行い、理解・納得をしていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙を玄関に置き、自由に記入していただくとともに、年2回の家族会の場で意見・要望をいただけるよう機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日の運営会議、第1月曜日の若葉会は職員が交代で参加し、意見など出せる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の取り組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会や各委員会に参加することでスキルアップする機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会からの情報などを取り入れ、質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にアセスメントなど事前に情報をいただくとともに、信頼関係を築くうえでコミュニケーションを密にとり、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントやご家族からたくさんの情報を得るとともに、信頼関係を築き、何でもお話できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント・ご家族の情報でまず一番に置くべき支援を見極め、プランに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の時間の中で共有できる時間をお手伝いや一緒に楽しむ時間など仲間同士無理なく過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来られて一層よい笑顔が生まれることもあり、一致協力して入居者を支えていく。また信頼していただける職員でいれるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人・友人など訪問して下さるとき、ゆっくりくつろいでいただけるよう配慮し、またいつまでもよい関係が続くよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士仲良く楽しく過ごせるよう、ソファの位置やテーブルの座る位置関係に配慮するとともに、会話の中にも入り込み、関わりを持つよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを出て行かれても、同法人内にみえる方には時々会いに行ったり、職員のホーム内での異動があっても関わりが持てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の意向を取り入れたプラン作成と、ご本人のペースに合わせた生活スタイルを優先にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントでの情報とともに、ご家族からの情報を取り入れ、ケアに活かすよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り事項とともに、バイタル測定の結果の把握や行動など、情報をその日の職員が共有することで同じケアが出来るよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	トリガーやほっと報告などを出し合い、毎月のカンファレンスで意見を出し合い、現状に合ったプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子・ケアの実践をカルテ内に記入するとともに、トリガーへの記入や日々の変化を次回のプランに活かせるよう情報を共有しカンファレンスで検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの来所や同法人内の行事、施設内の喫茶室へ出かけたり、ユニット合同の行事を計画したり工夫している。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に来てくださるボランティアへの参加や、出張美容室の先生との交流や幼稚園児との交流、また消防訓練での安全安心確認など地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Dr.回診が週1回あり、常に連絡が取れて受診できる体制ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日がNs.訪問の日と定め、個々の利用者の相談にのっていただき、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の情報なども訪問Ns.から情報をいただき対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせDr.とご家族とのムンテラで方針を決め、同情報を職員も共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの職員徹底及び消防署員による救命講習会を開催していただき、実習にて実践力アップを毎年図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち会いの大掛かりな訓練を年2回、ホーム全体で避難階段を使っての移動、ベランダへの脱出や各ユニットでの訓練などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々穏やかに過ごしていただけるよう、その人本位の生活スタイルを尊重し、入口が閉まっていればノックして入室したり、トイレ誘導時の声かけにも気配りしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつの入った器を選んでいただいたり、「じっとしているより何かお手伝いしたい」と言われる入居者に無理のないところでお手伝いしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人本位のペースで過ごしていただいている。時間の束縛もなく、起きたいときに離床したり昼間も眠ければ入床していただくよう本人のペースに任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師に来所していただき、希望の髪形にカットしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食食事の盛り付けをお願いしやっていたり、量の加減を分かりやすく1つ見本を作りやっていたり、手際よくやってくれる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に相談し、メニューのチェックも行ってる。また不足しがちな人にもプロッカやメイバランスなど補助食品など使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夕の口腔ケア励行とともに、口臭のある方にデンタルリンスを使用したり、舌苔予防に舌にブラシ掛けなど工夫している。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を記入し、パターンを知ることによって誘導にも心がけている。おむつは体調や本人の意識など変化に応じ見直しをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食センナ茶を飲んでいただくとともに、1日2回の体操参加への声かけと、10時のおやつヨーグルトと腹部マッサージなど工夫し取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日は決めているものの、本人の体調や都合に合わせて、臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり眠っていただけるよう散歩やベランダでの外気浴や、アクティビティなど活動に参加していただくよう促すも、眠いときは臥床していただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報があり理解している。変更・臨時薬などあれば状態チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴の中での力を活かし、メニュー書きや洗濯干し・たたみや食事の盛り付けなど、役割分担し充実した日々を過ごしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やベランダでの外気浴のほか、月1回のドライブ喫茶でティータイムをしたり、ご家族との外出など協力しながら出かけられるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	売店や喫茶店での支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解を得て、電話使用の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルに季節の花を生けたり、季節に合った飾り付けをリビングや居室入口などにその都度行っている。ベランダでは季節の花を植えたり季節の野菜を育てたり、めだかの飼育も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファを置き、思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れた物や家具など、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名札を取り付け、混乱を防ぐ工夫をしたり、廊下の幅も規定の幅より狭くすることなく安全に気配りしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム私の部屋 もみじ		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地		
自己評価作成日	平成22年7月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(3Fもみじ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度のサービス目標を玄関に掲げ、毎月カンファレンスにて個々の取り組みを職員間で話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事、盆踊り、祭りなどに参加。またグループ内の行事や喫茶コーナーへの参加などで交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会への一般公募や地域に向け認知症のケア予防の講習会を開いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の参加もあり、貴重な意見をいただいたり、施設の見学や地域行事への参加の機会を作りケアの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人単位で市との連携がとれるよう組織化している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は二重扉になっており、障子戸に鳴り物を付け開けたらすぐに一緒に出かけられるように対応している。また、常に委員会や勉強会を開催し、学んだことをカンファレンスにて話し合い取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で常に学ぶ機会があり、虐待の危険を見過ごすことがない様注意している。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の勉強会で学んでいる。必要と思われる人には支援できる体制にある。相談に応じた例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には相談窓口であり、十分説明を行い理解していただいている。家族会も利用し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時等意見を出せる場面を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の運営会議、月1回の若葉会があり、交代で参加し意見を出せる機会があり反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の取り組みがあり実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会や委員会があり自由に参加できる。また段階に応じ内・外研修に積極的に参加できる。職員の資格取得を法人として支援するシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流は常に行っている。またグループホーム協議会の定例会議や研修会にて他のホームとの交流があり意見交換できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に必要なアセスメントを収集している。また入居時にご家族から要望・不安等情報収集しご利用者とはコミュニケーションを多くとり安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談をしっかり受け止めご利用者とはゆっくり関わり、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により法人内の部署と連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・習字・野菜作り、百人一首などを一緒に行い、得意な事を把握し支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にその都度状態報告をしたり特変時には電話にて報告している。毎月行事予定の案内や報告をし参加の希望を伺っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人等の訪問時にはゆっくりくつろげるよう配慮し、間に入り会話が弾むよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やソファの座る位置などを配慮し、利用者間が関わりあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても法人内を利用されることが多く、引き続き相談支援できる体制がある。またサービス終了後ボランティアとして活動されるご家族もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報収集や日々の中からトリガーを見つけケアに取り入れている。ご本人とのコミュニケーションを密にし記録し情報の共有化をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメント表を使用し把握している。また会話の中から情報を収集し、記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態をカルテに記入し、申し送りや日誌で状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を伺い、月1回のカンファレンスにて話し合いをしている。また法人内の専門職の意見を取り入れ介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的には3カ月おきに見直しを行っているが、状態変化に応じ即家族や関係者と話し合い、新たな介護計画書を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人が窓口となり地域活動への参加、ボランティアの訪問、また他部署の専門的な意見などの協力があり、ご利用者のニーズに応じる事が出来るよう努めている。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各ボランティア、理美容院の来所や年2回消防署立会いのもと訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の協力医のほか利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう支援している。法人協力医の受診は必要に応じ支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護がある。また24時間体制にて連携が取れており必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が間に入り相談できるよう連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には家族・看護師・かかりつけ医・職員と話し合い、今後の方針を決めている。看取りの経験があり、看取りの体制にある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体や各部署で定期的に勉強会を行い、具体例での実践で学習している。消防署員による救命講習を受け、心肺蘇生法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署員の立ち会いのもと、避難訓練を実施し指導を受けている。また定期的に利用者とともに避難経路の確認を行っている。運営推進会議において地域の方々の協力が得られるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トリガーシートに不快となる情報を記録し、声かけに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類・食べ物など選択できることに関しては自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞を読む・歌番組視聴・散歩・家事手伝いなど、本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	法人内の美容室にて好みの髪型・髪染めができる。化粧・マニキュアの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の力を活かし、盛り付けや配膳・片づけをしていただいている。食事中は食材やメニューなどの会話がはずむよう話題の提供をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に相談できている。食事摂取量低下時は補助できるプロッカ・メイバランスなどが常備してある。利用者の状態に合わせて形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の身体状況に合わせ声かけ・見守り・介助にて実施している。週2回の義歯洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しパターンを知り、トイレでの排泄を支援している。おむつは随時見直し、排泄委員会にて検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のヨーグルト摂取・多めの水分補給・繊維質の多い献立など、自然排便を促す工夫をしている。また、利用者に合わせセンナ茶で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人や家族と相談し、個別に合った入浴の支援を行っている。入浴を拒む方に対しては、声かけの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や本人の希望により、日中でも休息していただいている。日中の活動(散歩・家事手伝い・アクティビティなど)を利用者に合わせて促し、夜間眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用の一覧表があり理解している。変更があれば様子観察・バイタルチェックを行い、看護師・医師に報告し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除・洗濯干し・洗濯たたみ・ゴミ出しなどの手伝いを一緒に行い、役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のゴミ出しを兼ねて散歩に出かけたり、ベランダに出て水やりをし、花や野菜の生育を楽しんでいる。		

岐阜県 グループホーム私の部屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	売店や喫茶店で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談のうえ、本人からの要望・職員からの声かけにて電話の利用を支援している。年賀状や暑中見舞いなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感のある飾り付けを行っている。また玄関には花を生けている。ベランダには草花や野菜を植えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自好みの定位置のテーブル席・ソファ席がある。畳のコーナーや廊下の端にも少人数で過ごせる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談のうえ、馴染みの物や写真を居室に置いていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に大きな名札をつけ、混乱を防ぐようにしている。		